

營業報告

2018年4月1日～2019年3月31日

第60期決算報告書

目次

- 01 株主の皆様へ
- 02 トピックス
- 03 当期の業績について
- 06 当期の概況
- 08 中期経営計画
- 09 株式に関する事項
- 10 会社概要

株主の皆様へ

message

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび代表取締役社長に就任いたしましたので、ここに謹んでご報告申し上げます。

業界を取り巻く環境が一段と厳しさを増す折から、その責任の重大さを痛感しておりますが、今後も全社員一致団結して社業発展のため、さらに専心努力し、皆様のご期待にお応えする所存でございます。

当期における経営環境は、企業の設備投資や個人消費が持ち直すなど、緩やかな回復基調で推移してはいましたが、米中貿易摩擦等による世界的な景気減速懸念により、先行きは不透明な状況にあります。当社に関連深い半導体製造装置業界における大手半導体メーカーの次世代プロセス関連の設備投資が継続するなか、一般的な産業用装置における設備投資も継続しており、受託製品および自社製品とも順調に推移いたしました。

このような経営環境のもと、当社は顧客満足度のさらなる向上のため、市場ニーズを先取りした新製品の投入により、お客様の装置の競争力向上に貢献するとともに、品質面では、更なる微細化への対応に取り組みます。

どうぞ株主の皆様におかれましては、これからのアバールデータにご期待頂きますと共に、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

菊地 豊

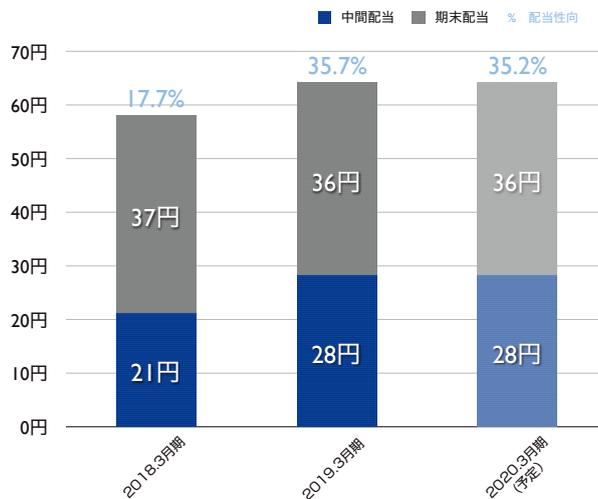


第60期 配当の実施について

当社は、将来の企業価値向上に向けた事業投資に伴う中長期的な資金需要や財務状況の見通しなどを総合的に勘案し、配当性向35%を基本に、株主の皆様への成果配分を行っております。

このような基本方針のもと、当期の期末配当金につきましては、1株当たり36円とし、既に実施済みの中間配当金28円と合わせて、1株当たり年間配当金は64円（前期年間配当金実績：創業60周年記念配当6円を含め58円）といたしました。

次期の1株当たりの配当金は、中間に28円、期末に36円、年間合計64円を予定しております。



第60期に出展したおもな展示会

OPIE'18

2018年4月25日～27日(パシフィコ横浜)

ビッグデータ活用展 2018 (Japan IT week 春)

2018年5月9日～11日(東京ビッグサイト)

画像センシング展 2018

2018年6月13日～15日(パシフィコ横浜)

The International 3D Curved Glass Manufacture

Technology & Application Exhibition_China_Shenzen

2018年6月21日～24日(中国・深圳会展中心)

組込み総合技術展 & IoT 総合技術展関西

2018年7月5日～6日(グランフロント大阪)

Vision Stuttgart 2018

2018年11月6日～8日(ドイツ・Messe Stuttgart)

赤外線フェア

2018年11月13日～15日(科学技術館)

画像画像機器展 2018

2018年12月5日～7日(パシフィコ横浜)

VISION CHINA 2019 SHANGHAI

2019年3月20日～22日(中国・上海新国際博覧中心)

Automation World 2019

2019年3月27日～29日(ソウル・COEX)



当期の業績について

損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前期	当期
	2017年4月1日～ 2018年3月31日	2018年4月1日～ 2019年3月31日
売上高	7,081	7,699
売上原価	4,471	4,785
売上総利益	2,609	2,913
1 ← 販売費及び一般管理費	1,309	1,370
営業利益	1,299	1,543
営業外損益	419	52
経常利益	1,718	1,595
当期純利益	1,994	1,091

1 販売費及び一般管理費1,370百万円には、今後の製品展開のための研究開発及び広告宣伝の費用584百万円が含まれております。

好調な企業業績や雇用環境の改善を背景に、企業の設備投資や個人消費が持ち直すなど、景気は緩やかな回復基調で推移しております。

しかし一方では、米中貿易摩擦等による世界的な景気減速懸念や英国のEU離脱問題など、依然として先行きは不透明な状況にあります。

このような経営環境のもと、当社は顧客満足度の更なる向上のために、市場ニーズを先取りした新製品の投入によりお客様の装置の競争力向上に貢献するとともに、品質面では、更なる微細化への対応に取り組みました。

この結果、当期の売上高は7,699百万円（前期比8.7%増）、生産性の向上および効率的な研究開発活動を行った結果、営業利益は1,543百万円（前期比18.7%増）、経常利益は1,595百万円（前期比7.2%減）、当期純利益は1,091百万円（前期比45.3%減）となりました。なお、経常利益および当期純利益は、受取配当金の減少および前期において関係会社株式売却益を計上したことに伴い、前期比で減少しております。

貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	2017年4月1日～ 2018年3月31日	2018年4月1日～ 2019年3月31日
■資産の部		
2 ← 流動資産	7,858	8,247
現金及び預金	4,420	4,592
受取手形及び売掛金	1,528	1,285
電子記録債権	504	582
商品及び製品	390	546
仕掛品	284	372
原材料及び貯蔵品	663	758
その他	65	107
3 ← 固定資産	4,272	4,845
有形固定資産	1,831	1,805
無形固定資産	24	31
投資その他の資産	2,416	3,008
投資有価証券	2,401	2,980
その他	12	25
資産合計	12,130	13,093

2 現金及び預金171百万円、電子記録債権78百万円、棚卸資産338百万円が、それぞれ増加し、受取手形及び売掛金242百万円が減少した結果等により、388百万円増加し8,247百万円となりました。

3 投資その他の資産が投資有価証券の時価変動の影響等により578百万円増加し、有形固定資産26百万円が減少した結果等により、573百万円増加し4,845百万円となりました。

(単位：百万円)

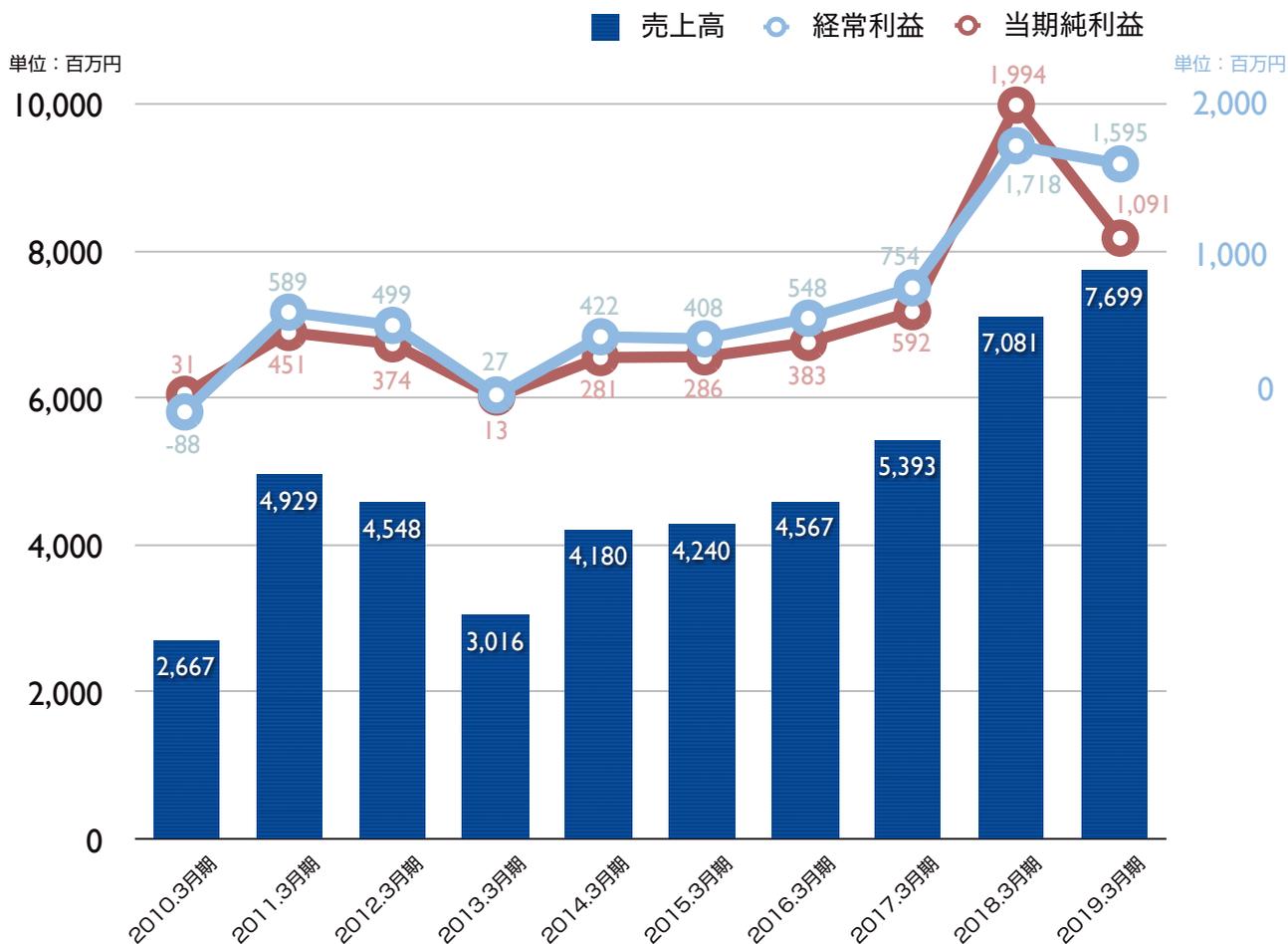
科目	前期	当期
	2017年4月1日～ 2018年3月31日	2018年4月1日～ 2019年3月31日
■負債の部		
4 ← 流動負債	2,070	1,700
支払手形及び買掛金	1,039	1,048
その他	1,025	647
5 ← 固定負債	419	605
負債合計	2,489	2,305
■純資産の部		
株主資本	8,489	9,203
資本金	2,354	2,354
資本剰余金	2,493	2,493
利益剰余金	4,640	5,333
自己株式	△ 999	△ 977
評価・換算差額等	1,152	1,583
6 ← 純資産合計	9,641	10,787
負債純資産合計	12,130	13,093

4 前期に関係会社株式売却益を計上したことに伴い未払法人税等528百万円計上しておりましたが、当期は153百万円の計上となり前期と比較して374百万円が減少した結果、370百万円減少し1,700百万円となりました。

5 繰延税金負債224百万円が増加し、長期借入金26百万円、退職給付引当金12百万円が、それぞれ減少した結果、186百万円増加し605百万円となりました。

6 利益剰余金693百万円、その他有価証券評価差額金が時価の変動により431百万円が、それぞれ増加し、自己株式21百万円が減少した結果、1,146百万円増加し10,787百万円となりました。

売上高／経常利益／当期純利益



当社は、事業内容を受託製品と自社製品の2つの報告セグメントに分けております。

1. 受託製品

当該セグメントは、半導体製造装置関連、産業用制御機器および計測機器の開発・製造・販売を行っております。半導体製造装置関連市場におきましては、大手半導体メーカーの設備投資が継続しており、第2四半期において新規設備投資の後倒しの影響がありましたが、一方で産業用制御機器におきましては、従来顧客の安定的な需要に加え、新規顧客の営業展開が進んだことにより、受託製品全般において順調に推移いたしました。

この結果、売上高は4,377百万円(前期比1.6%増)、セグメント利益(営業利益)は826百万円(前期比5.8%増)となりました。

■ 受託製品 半導体製造装置関連

半導体製造装置の制御部を提供しております。大手半導体メーカーの3D-NAND向け設備投資が続くなか、第2四半期における新規設備投資の後倒しの影響があり、半導体製造装置関連の売上高は減少し、3,359百万円(前期比8.7%減)となりました。

■ 受託製品 産業用制御機器

各種の産業用装置、社会インフラ関連の制御部を開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。産業用装置の新規展開が、順調に進んでおり、売上高は大幅に増加し、654百万円(前期比85.5%増)となりました。

■ 受託製品 計測機器

各種計測機器のコントローラ、通信機器の制御部を開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。各種計測機器の需要が改善傾向にあり、売上高は大幅に増加し、363百万円(前期比32.3%増)となりました。

2. 自社製品

当該セグメントは、組込みモジュール、画像処理モジュールおよび計測通信機器の開発・製造・販売並びにこれらに付属する周辺機器およびソフトウェア等の自社製品関連商品の販売を行っております。一般的な産業用装置における設備投資は回復基調にあり、加えて新分野への開拓も順調に進み自社製品全体は、好調に推移いたしました。

この結果、売上高は3,322百万円(前期比19.7%増)、セグメント利益(営業利益)は1,193百万円(前期比23.4%増)となりました。

■ 組込みモジュール

半導体製造装置、FA全般、電力・通信関連向けに提供しております。FA全般および医療機器関連における受注は上期が低調に推移し、下期にやや回復するも売上高は減少し、427百万円(前期比6.0%減)となりました。

■ 画像処理モジュール

FA全般、各種検査装置、液晶関連機器に提供しております。各種検査装置においては積極的な新製品開発の推進に加え、検査工程の自動化ニーズの高まりから好調に推移しており、売上高は増加し、1,554百万円(前期比6.9%増)となりました。

10GbE I/F対応ボード
APX-3442
IEEE 802.3規格に準拠する10 Gigabit Ethernet(10GbE)インターフェース×2chを搭載したPCI Express×4規格のカメラ用インターフェースボード。



■ 計測通信機器

超高速シリアル通信モジュール「GiGA CHANNEL」シリーズを提供しております。「GiGA CHANNEL」シリーズ関連の新規検査装置向けの受注により、売上高は大幅に増加し、1,111百万円(前期比67.4%増)となりました。

■ 自社製品関連商品

自社製品の販売促進とシステム販売による高付加価値化を図るため、ソフトウェアおよび付属の周辺機器を提供しております。自社製品関連商品は、自社製品全般が堅調であったため、売上高は増加し、228百万円(前期比13.5%増)となりました。

ハイパースペクトルカメラ
AHS-U20MIR

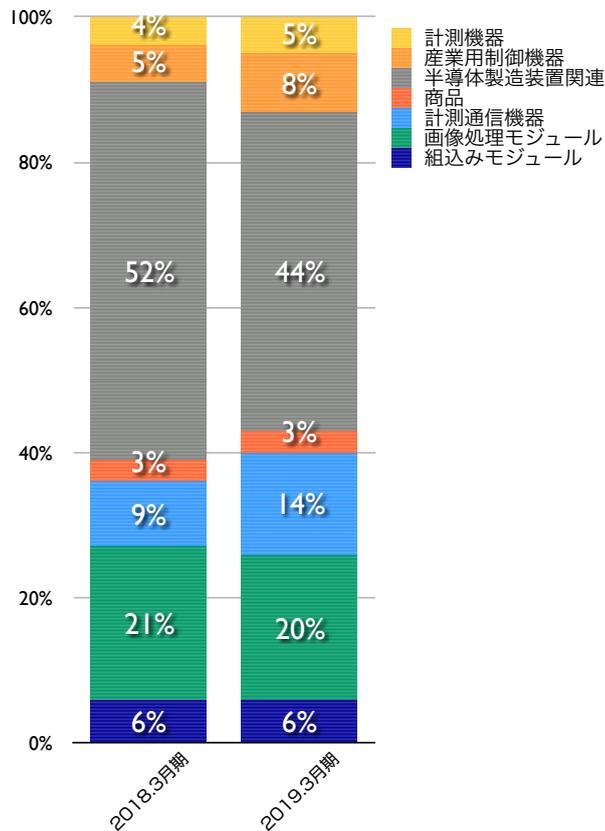
ハイパースペクトルカメラではXY座標の二次元空間情報と波長軸のデータ(スペクトル情報)を同時に取得できるカメラです。AHS-U20MIRでは、192画素のラインにて、1300nm～2150nmの波長を、9.6nm間隔で分光し、96バンドのスペクトル情報として取得しています。



小型画像処理プラットフォーム
ASI-1424

Camera Link Baseカメラ4台を接続できる小型のBOX型コンピュータ。画像処理システムに必要なインターフェースをすべて搭載。CPUにはIntel Core™i3 -6100を搭載して高い処理能力を持っています。

■ 売上構成比率 (昨年度との比較)



中期経営計画:第61期-第63期

アパールデータは、攻めの経営による投資の効率化と固定費の最適化を行い、強い体質をさらに強化し、経営環境の変動に強い体制を確立させ、実行力で計画を達成することにより、現状の主力分野を維持して、新しい分野で35%から45%の成長を目指します。

SaaS
simpleandspeed
シンプルアンドスピード

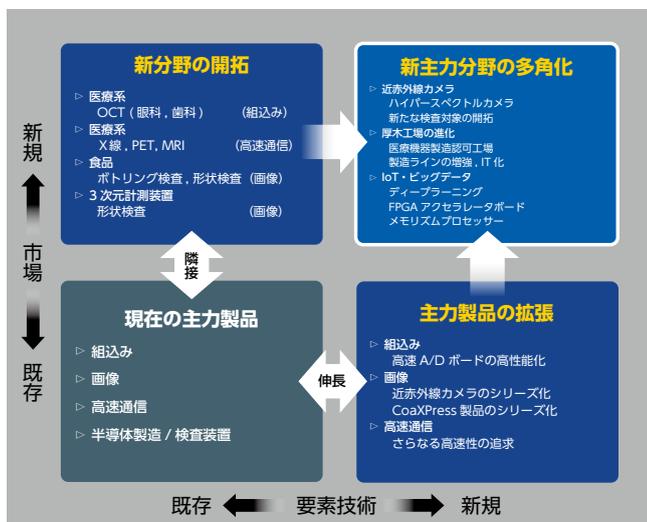
■経営指標 第63期 2022年3月期終了時のあるべき姿



■経営戦略 「業界変革のなか新たな飛躍をめざし、強固な経営基盤と事業基盤を確立する。」

- 成長事業の確立(新分野の開拓)
- 体質強化(スリムな企業体質)
- 生産性の拡大(微細化、多品種)

■事業戦略



現在の主力製品を維持しながら新たな分野へ挑戦し、売上拡大をはかります。

差別化された新たな製品をタイムリーに開発し、顧客の開発期間短縮に貢献します。

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	23,500,000株
株式の種類	普通株式
発行済株式の総数	7,417,842株
株主数	3,588名
単元株式数	100株

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月開催	
基準日	定時株主総会の議決権	毎年3月31日
	期末配当金	毎年3月31日
	中間配当金	毎年9月30日

大株主 (上位10名)

株主名	持株数
株式会社ニコン	646,700株
嶋村 清	193,600株
アバーグループ社員持株会	173,293株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	155,700株
佐々木嘉樹	152,000株
ケービーエル ヨーロピアンプライベート バンカーズ エスエイ107704	139,100株
奥村龍昭	130,000株
株式会社日本マイクロニクス	119,600株
レーザーテック株式会社	109,500株
イーソル株式会社	107,000株

当社のIRに関して

当社は、投資家の皆様に、広く当社をご理解いただくため、適切な情報開示に努め、さらにIR活動の充実を目指しております。

当社株主様をはじめ、個人投資家の皆様には、当社ウェブサイト等にて、工場見学会、決算説明会の開催をお知らせし、当社及び当社製品についてのご理解を深めていただくことを心掛けております。

またアナリスト、機関投資家向け決算説明会を年2回定期的に開催し当社の経営状況について経営者より直接ご説明をさせていただきますいております。

今後におきましても、営業展開・製品開発などについて、決算説明会などの資料を通じ、わかりやすい表現、内容により当社の

現状をお伝えしていきたいと考えております。



決算説明会、工場見学会

2018年11月27日(火) 2019年3月期第2四半期決算説明会及び工場見学会開催
: 当社厚木事業所

2019年5月27日(月) 2019年3月期決算説明会開催
: 丸ビル8階ルーム4

商号	株式会社アバールデータ	
資本金	23億5,409万円	
設立年月日	1959年(昭和34年)8月	
社員数	179名(2019年3月31日現在)	
事業内容	一般通信機器の製造販売、工業用計測器並びに工業用制御装置の製造販売、物理、化学、医学用等の電子装置の製造販売、その他の各種電子応用装置の製造販売	
役員	代表取締役社長	菊地 豊
	代表取締役	広光 勲
	取締役	岩本直樹
	取締役 常勤監査等委員	大塚忠彦
	取締役 監査等委員	金子健紀
取締役 監査等委員	金澤健一	



アバールデータの経営理念、AVALue⁺（エー・バリュー・プラス）とは、それぞれ以下の頭文字を、加えて生まれた造語です。AVAL:「Available:有用性」から付けられた当社の社名AVAL。そのうえA'には:技術の「Advance:先進性」、その品質の「Assure:保証」、サービスや対応の「Agile:早さ」など様々な「価値」の意味を表しています。u:私たちの会社の理念「顧客を第一に考える」の姿勢(u[user oriented]) e:「エレクトロニクス」に代表される当社の技術(e[e-solution])。そして+:にはAVALueを進める推進力として社員一人一人が持っている潜在力を一つのベクトルにあわせて働きかけ加速させ、いつでもお客様に必要な価値を追及し提供する決意を表しています。

株式事務のご案内

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

各種お問合せ先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

公告方法

電子公告の方法により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

当社のWebサイトアドレス www.avaldata.co.jp

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様ににつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。

確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

株式会社アバールデータ

〒194-0023 東京都町田市旭町 1-25-10

TEL042-732-1000 FAX042-732-1022

www.avaldata.co.jp

